

取扱注意

記	事
在京	5
1953. 1. 14	

国際理論物理学組織委員会
在京委員会第5回会合記事

日時：1953年1月14日(水) 17時 - 19時半

場所：日本学術会議 会議室
藤岡、茅、小谷、武藤、佐藤、谷、朝永、山内、

出席者：本田、各委員(特別出席者) 奥田氏(朝日新聞) 吉本氏(交通公社)
(甲務局) 竹下、吉田、肥後、山根

- 議題：
1. 朝日新聞社代表者との懇談
 2. 日本交通公社代表者との懇談
 3. 予算に関する報告及び協議
 4. 寄付金に関する報告及び協議
 5. 日光会場の可否
 6. 国際会議の開会期日繰上
 7. 外国との往復通信に関する報告
 8. 外国との連絡に関連した事項に関する協議
 9. その他

※ この資料には寄付、朝日新聞社の計画等余り早期に委員外に
広く知れると非常に不都合な事項も含まれておりますから、こ
の記事内容について外部への御発表はその時期等について十分
慎重をお願いします。

1. 朝日新聞社代表者との懇談

(

記	事
在京	4

 の3頁、項目3参照)

同社学芸部の奥田教久氏が来席、先方の希望を次のように述べた。

- (1) 講演会は東京、大阪、名古屋、福岡で、Bohr, Heisenberg, Oppenheimer, Perrin (これに或は Bhattha を加える。)を頼みたい。
- (2) その外に東京で講演者の座談会を催したい。
- (3) 講演は15分~20分で挨拶程度のものとし、開会の辞を湯川氏に、閉会の辞を朝永氏に依頼したい。
- (4) 時期は講演会、座談会共京都本会議の前としたく、又他新聞社主催の講演会より先にしたい。但し毎日が Bohr と先約があるならそれだけは別と考えてもよい。
- (5) この朝日の計画が朝日新聞社から発表されるまでは他の新聞には絶対に秘密にしておいてもらいたい。

以上に関して次のような協議が行われた。

- (1) 前回講演者に Mott, Slater を加えるのがよいのではないかと意見もあつたが、このことはやめて、兩人には物理学会主催の学術講演会を頼むことがよい。
- (2) 講演会場は一応東京と大阪のみとし、東京は13日又は14日、大阪は25日又は26日がよい。講演通訳は浅辺慧氏に頼むことを考える。
- (3) Bohr は朝日としては是非頼みたいところだが、毎日の先約があつてどうしても無理ならば東京講演会には Bohr を外して、

(2)

大阪だけに出してもらうことにしてもよい。

記	事
在京	5

- (4) 座談会は東京講演会に引き続いて催し、1時間位をこれに当てる。通訳なしで英語で話を交すこととし、英語速記を取る外、テープレコーダーにも取る。司会には物理学専門以外の英語の連者な知識人がよいということ、朝日新聞論説主幹笠信太郎氏の名前が挙げた。
- (5) 新聞主催の一般講演会も、物理学会主催の学術講演も会費は取らない方がよい。
- (6) 地方でも講演会を開くときは別に旅費を出すことにし、謝金と旅費との実際の運用については、各講演者の都合を参考して委員長と新聞社の間の協議を決める。(例えば Perrin に対しては往復旅費の一部に当てる)
- 又講演者が他の来日科学者とかけ離れて目立って良い待遇を受けるようなことがないように注意する。
- (7) 先方との連絡は新聞社が取るが、組織委員会からは、このことを承知している旨の手紙だけ出すことにする。
- (8) 各講演者の略歴を委員会から朝日新聞に提供する。
- (9) 毎日新聞の先約した Bohr に対して朝日も講演を依頼するについては、毎日としては要存はない筈であるが、これについて藤岡委員長が一応毎日の意向を確かめること。

2. 交通公社代表者との懇談

(

記	事
在京	4

 の5頁、項目3参照)

(3)

日本交通公社外国部長吉本元輔氏兼席、小谷委員立席の地方旅行各種コースの原案の説明があつて、これを検討。次のような点が論議された。

- (1) 各コース全部に大阪を含めること。
- (2) 各参加者に早目にコース、費用等を通知して希望を集める必要がある。
- (3) 鉄道料金の割引は国内的な行事に際して実施された例があるから、運輸大臣から指示が出るような策を講ずれば実現は不可能ではない。
(吉本氏) その他、東武、小田急等の私鉄に対して、寄付の代りにサービスの提供を依頼することが考えられる。
(平田総長)
- (4) 参加外国科学者は一応70人を踏む、京都で70人分のシキタル・ルームを確保することは無理と考えなければならぬ。
(吉本氏)、その対策としては、一部を日本旅館或はタスル・ルームに入れることを考えなければならぬ。
- (5) 外国人の世話係として荷物、ホテル、その他日常のことについて用を承る人が是非必要で、これは交通公社で世話する。
(吉本氏)
- (6) 吉本氏が小谷原案を検討して、その結果を次回会合までに資料として提供する。

3. 予算に関する報告及び協議

肥後司計長からの報告があり、大蔵省査定の結果総額は5,524,

(4)

000円と決つた。(その他に文部省予算に国内科学者参加旅費2,500,000円が査定されたとのことである。

記	号
在	5

これに基づき、寄付募集が思わしく行かぬかつた場合、最後と見なければ一応会議が出来るかの最小予算額を計上したところ、総額8,452,000円、即ち国庫予算5,534,000円に対し2,923,000円の不足となり、最小限度これだけの寄付が集れば会議は開けないことはないということになった。

外
2

但しこの計算の基礎は次のように切りつめたものである。

- (1) 45名×14日×5,000円
- (2) 旅費は東京-京都の往復だけ見込む。

即ち

- (1) 45名以外の自費負担参加は全然考えない。
- (2) 滞在は会議前後計7日間
- (3) 日光会場は考えない。
- (4) Proceedings の出版は来年廻しにする。

この計算は委員の間だけの資料とし、表向きはどこまでも12,000,000円程度を寄付の最低目標として進むことにすることに決定。

4. 寄付金に関する報告及び協議

藤岡委員長から波沢敬三氏と懇談した経緯を報告、資料として、「国際理論物理学会議全費概算」(当日配布

2	
在	5

)を手渡したこと、同資料によれば所要総額17,283,000円、国庫支出5,281,000円、差引不足額12,002,000円)。その時の話では

(5)

相当な部分が大阪地才から出ると考えられるので同地で何等か行争が行われるようにプログラムを組むとよいとのこと、前出の朝日新聞講演会もその一つとして挙げられた。

5. 日光会場の可否

(

記	事
在京	4

 6頁、項目9参照)

小谷委員から物性専門委員会在京委員会の意向報告。「日光会場で予定されていた分子物理学関係の *symposium* は京都の本会議に含めらるものは含めてもよいが、どうしても関連の薄い分野の部門だけは別に *symposium* として1日とよいから開きたい。

その会場は古河のクラブハウスがある関係上是非日光にしたい。」
両議の結果、一部参加者だけが特別な会合を開くことは面白くないが、正式にプログラムに組まず、有志の *informal* が集りとして行うのなら差支ないことが認められた。

これに関連して、Mott には是非この集りに出してもらう外、23日の最終日、*Closing Session* の直前にカ2、カ3両会場合同の *session* を開いて、Mott の講演を聴くことにする。

6. 国際会議の同会期日線上

15日の *Registration* から京都の本会議の開会までの間日数の余裕が少すぎるから、*Registration* を14日に繰り上げることを了承。このようにして浮いた日に執行委員会・講演会等の行争を行う。

期日の変更は *Second Circular* の形で通知を出す。この *Second Circular* には地才旅行のコースの紹介も入れ、又各地の大学等から

(6)

記	事
在京	5

寄せられた講演希望などについても述べて各招請者の意向も偵す。但し、講演希望はあくまで単なる参考までにしてもらい、強制するものでないことを十分先方に伝えること。

7. 外国との往復通信に関する報告

過去一週間の着信・発信・起案中のもの等について別紙

外信	2
----	---

 通り事務局から報告

8. 外国との連絡に関連した事項に関する協議

(

外信	2
----	---

 参照)

(1) *Schiff* の参加申込

招請することに決定

(2) *Mendelssohn* の参加申込

小谷委員から、金研神田教授に照会中であること。先方には取敢えず挨拶を出して、物理学国際会議のことについても触れたことを報告。

(3) 一般からの提出論文の取扱について

(

記	事
在京	4

 4頁、項目5の(ウ)参照)

原則としてこれは受け付けないことに決定。但し特別のものは何々の件について在京委員会で審議する。この旨 *Osborn* に回答する。

(4) *Rockefeller* 財団への中間報告を出す。

(7)

9. その他

(1) Kelly, Auger の滞日全費

これは寄付金の中から賄うこととする

(2) 各招請者に送るガイドブックについて

寄付が集るまで交通公社が立替えてもらって、ガイドブックを各招請者に送ることを考えること。

その補足として、各地の物理学関係の研究施設等の説明書を作成すること。それは物性専門部会で準備し、素粒子関係として、京都の湯川記念館、仙台の金属材料研究所、長崎観測所を加えること。

これらを 2nd Circular 中に入れて2月中に出す。

(3) 素粒子関係招請者に講演題目を問い合わせること。

4月頃に照会を出すこと。